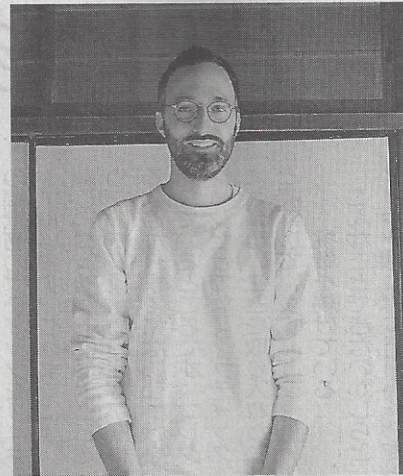


# デザイン家具を身近に

コンテンポラリーなデザイン家具をもっと身近に。老舗家具メーカー、カリモクが世界に発信するブランド「カリモクニュースタandard」で、クリエイティブディレクターを務めるダヴィッド・グレットリさんは、京都の自宅を同ブランドのショールームとして公開している(予約制)。「臆せずデザインを生活に取り入れ、親しんでほしい」という思いが背景にある。

## 「カリモクニュースタandard」クリエイティブディレクター ダヴィッド・グレットリさん



グレットリさんはスイス出身で日本の言語、料理、文化にひかれ08年に移住した

グレットリさんの自宅は、京都市内の静かな住宅街にある古い日本家屋だ。入り口ののれんをくぐって土間に入ると、目の前にミニマルで洗練されたテーブルや椅子が静かにたたずんでいる。その組み合わせは一見相反するように見えるが、違和感なくなじんでいることに、来場者からは驚きの声があがる。「良いデザインと良いデザインは、時代を超えてマッチする」。ダ



◎木寺紀雄

日本家屋とコンテンポラリーな家具が融合している

ヴィッドさんが信じるセオリーだ。カリモクニュースタandardは、09年にスタート。国内外で活躍するデザイナーを起用し、革新性がありながら普遍的なデザインを追求している。世界各国で発表し、ベルギー、オランダ、スウェーデン、アメリカ、韓国など17カ国、約65店で販売している(15年1月時点)。アジアのバイヤーの情熱を実感する一方、懸念しているのが、日本人のインテリアに対する保守的さだ。「展示会では反響がよいけれど、自分の家には合わないんじゃないか」とちゅうちゅうする人が多い。雑誌などのお手本ありきでインテリアを選ぶ人が多く、自分ならではの組み合わせに挑戦する人が少ないとい

## 日本家屋の自宅がショールーム

う。ショールームがそのハードルを下げ、「デザインを日常的に楽しむきっかけになれば」と願っている。

グレットリさんは、スイス・チューリッヒ出身。ローザンヌ美術大学卒業後、国内でプロダクトデザインとインテリアコーディネート分野で様々なプロジェクトに携わり、08年に日本に移住した。日本の伝統工芸や建築に興味があったが、「プロダクトデザインは正直に言って面白くなく、だからこそ可能性があると思う」とそうだ。今では、「ヨーロッパのデザイナーと日本のメーカーを結びつける橋渡しの仕事も多岐請け負っている。日本のメーカーが世界に販路を広げられない理由として、①距離と言葉の問題で海外デザイナーとの協業をためらってしまうこと、②展示会で発表しても、販売につなげるためのコミュニケーションがうまくないこと、③インハウスデザイナーを抱えているため新しいデザインが生まれにくいことを挙げる。しかし、「職人技術のレベルは高い。海外デザイナーがその技術と日本の素材をよく理解してデザインすれば、必ず日本のスピリットが感じられるものになる」と確信する。今後は、そんな取り組みで生まれたプロダクトデザインの数々を、世界に発信していきたい考えだ。

問い合わせはメール contact@davidgelettli.jp